

平成27年第2回福岡市食育推進計画検討部会 議事録

1. 日 時：平成27年11月13日（金） 15:00～16:30

2. 場 所：アクロス福岡6階 608会議室

3. 会議次第

- | |
|---------------------------|
| 1 開会 |
| 2 報告および議題 |
| ・第1回検討部会でのご意見を踏まえて（報告） |
| ・基本目標の目指す姿，具体的な取組について（議題） |
| ・具体的な目標値の項目について（議題） |
| 5 閉会 |

4. 出席委員：7名

欠席委員：6名

5. 報道機関取材者及び傍聴者

報道機関：無 傍聴者：無

6. 議事内容

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 【報告：第1回検討部会でのご意見を踏まえて】 第1回検討部会での意見についての振り返りと部会後の修正箇所等の報告 |
| 事務局 | 【議題：基本目標の目指す姿，具体的な取組について】 「第3次福岡市食育推進計画構成案（資料1）」及び「基本目標の趣旨と目指す姿（資料2）」について説明 |
| 委員 | 資料2の「食を通じた健康づくり」について，子どもの健やかな成長，成人期における生活習慣病予防，高齢者の低栄養予防と3段階になっているが，子どもと成人期の間の青年期について入れなくてよいのか。若い人の痩せはとりあげなくてもよいのか。青年期における低栄養が，次世代の人達の胎児の少子化や胎児が将来生活習慣病になりやすいというような研究成果も出ている。胎児の低体重についても話題になってお |

| | |
|-----|---|
| | <p>り、スペインではBMI 18以下のモデルは出場停止、ロンドンではあまりに細いマネキンを撤去するなど痩せすぎ対策が最近の問題となっている。その点について意見をいただきたい。</p> |
| 委員 | <p>確かに、最近はみんなスリムになり、洋服も細身になっているように思う。2～3年前までは、妊娠中に「体重はこれだけしか増やしてはいけない」と言われ、もともと痩せていた人でさえ妊娠中もダイエットをして、結局生まれてくる子は2,500gより下回るということが結構多かった。ここ1～2年は、もともと痩せている人は体重をもっと増やしてよいというような基準になってきているようだが、やはり、美の基準が「痩せている」というところに向けられており、様々な弊害が出てきている気がする。</p> |
| 委員 | <p>校区で献血を実施する際、若い方に参加をお願いするが、ほとんどの方が体重が足りないか、もしくは比重が低すぎることでねられている。10人中2人くらいしか献血をできない。献血できる人というのは、年齢が上の人達というのが現状である。</p> |
| 委員 | <p>標語を作ってはどうか。例えば「献血できる身体になろう」や「献血ができる食事を摂ろう」など。</p> |
| 委員 | <p>若い痩せすぎはよくないというムーブメントが必要で、やはり美への意識を改めていく必要がある。そう考えると、原案に子どもの健やかな成長、青年期の低体重・低栄養防止、成人期における生活習慣病予防というように青年期のことを一言入れた方がよいのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>青年期も入れた世代ごとの目指す姿については、次の資料3でまとめている。</p> |
| 事務局 | <p>「ライフステージごとの目指す姿（資料3）」について説明</p> |
| 委員 | <p>資料2の中の「ふくおか」の表記について、標語の部分はひらがな、それ以下の部分は漢字で表記されているが、標語の部分だけがひらがな表記との理解でよいか。漢字で「福岡」と表記すると、福岡県なのか市なのかとの問題になるので、柔らかい表現としてひらがな表記にしたということか。</p> |
| 事務局 | <p>ご指摘のとおりである。</p> |
| 委員 | <p>事務局は、地産地消における「ふくおか（福岡）」の表現について、随分配慮しているようだが、何か意見はあるか。</p> |
| 委員 | <p>前回発言したとおり、全体量で150万人分もまかなえないというのが前提であり、日々</p> |

| | |
|-----|---|
| | 市民が食べられるだけの量はない。 |
| 委員 | この「ふくおか」というのは、福岡市であり、県であり、九州であり、国産という意味の「ふくおか」なのではないか。TPPを念頭におくと、やはり地元の物、国産を食べましようと言っているのだと思う。 |
| 委員 | 「ふくおかさん家のうまかもん条例」については、市長発案か。 |
| 事務局 | 昨年9月に条例ができたが、議員からの発案である。 |
| 委員 | ドバイで糸島産の水菜と博多ねぎを見かけ、すごく感激した。ドバイの野菜はほとんどがしなびれていたが、値段は高いものの、とてもきれいな水菜と博多ねぎが揃っており、世界に誇れる野菜なのだと嬉しく思った。 |
| 委員 | シンガポールでも九州産のものが新鮮な状態でたくさん並んでいた。 |
| 委員 | 福岡の食物は土地もよく水もよい。地元の方は、「世界に愛されている物をいつも食べられるんだ。」という魅力を発信していきたい。また、そういうイベントもやっている。本当は、とれたものをその土地の方に食べてもらうのが一番よいのではないかと思う。 |
| 委員 | 鮮度・見た目とともに、成分的にもやはり劣化していくのではないか。 |
| 委員 | 同じ魚や野菜でも、とれてすぐの物とは違うのではないかと思う。 |
| 委員 | 私の大学の食堂では毎月1日には赤飯が出る。これからかつお菜の時期だが、様々な季節の伝統食を提供している。 |
| 事務局 | 「家庭・地域（関係団体）・行政の具体的な取組（資料4）」について説明 |
| 委員 | 幼稚園では乳幼児の除去食があるが、アレルギー対策についてはどのように対応していくのか。資料3の家庭や団体等の中などに、そのような文言を入れるべきではないだろうか。幼稚園や保育園でもアレルギーの子どもが多くなってきている。最終的な目標としては、成長するにつれて次第に除去をしなくていいようになってほしいと思うが、小学校や中学校では除去は行っているのか。 |
| 事務局 | 現在、小学校においては、卵やマヨネーズ、ごま・ごま油といった調理の最終段階で加えるものを、加えずに提供するという除去食は行っている。中学校については、新しく給食センターを整備しているが、新しくできた給食センターにおいては、除去食 |

| | |
|-----|---|
| | に加え代替食の提供を始めている。 |
| 委員 | 確かに幼稚園や保育園ではアレルギーの子どもが多く、大変困っていると聞く。 |
| 委員 | あつてはならないが、誤って食べさせてしまう事例や子どもが間違っで食べる事例が起きている。大事に至らなければよいが命に関わることが多い。 |
| 事務局 | 文言を入れるとすれば、「食を通じた健康づくり」の部分になる。「アレルギーにも配慮した、体質に応じた食事を提供できる」といったような文言を追加したいと思う。 |
| 委員 | 保育所や幼稚園で対応するのは、必須の事柄となっている。 |
| 委員 | さらに言えば、宗教上の問題もあり、東区の方はイスラムの留学生が多いため、豚が使えない、アルコールの入っていない調味料を使うなど、実は深刻な問題がある。 |
| 委員 | イスラム教の子どもに小学校の給食について尋ねると、給食が食べられないので自分で弁当を持って行くとのこと。 |
| 委員 | 小学校でも、除去だけでは足りない人は弁当を持ってきているのか。 |
| 事務局 | アレルギーに関しても、一般的な除去では足りない方については弁当を持ってきている。 |
| 委員 | それでは、どこかに「体質に配慮した食事を提供できる」という文言を入れていただきたいと思う。 |
| 委員 | 食育を行うことができる先生の養成については、大学でも考えられているのか。また、管理栄養士の中でもそのような教育はあるのか。 |
| 委員 | 大学でも行っている。学校でも教員を採用しているのか。 |
| 事務局 | 栄養教諭の採用は全国的に進められている。 |
| 委員 | 通常の教育学部の先生は、食育についての教育があるのかどうか、そこは課題かもしれない。 |
| 委員 | 広告を使った広報もよいが、食育とは教育であると思う。教科書の中に、「なぜ食育や食を通じた健康づくりを推進しなければならないのか」という答えの部分が抜け落ち |

| | |
|-----|--|
| | <p>ているような気がする。授業として食育を加えることができないか。なぜよく噛まなければならないか、痩せているとどういふ弊害が起きるか、なぜ野菜を食べないといけないかなど、小学校の高学年くらいになれば頭にも入ると思う。本来は、親が教える部分も大いにあると思うが、今は学校で教えなければならないのかなと思う。</p> |
| 事務局 | <p>現在、福岡市内 145 校のうち 55 校に栄養教諭を配置している。配置のない学校については、栄養教諭がそれぞれ担当校という形で指導に行っている。指導の形態としては、単独で食育に関しての授業をするというよりは、社会科や保健体育等の時間に、本来の担当教諭と一緒に野菜を食べることの必要性やバランスよく食べることの大事さなどを教えている。人員配置的に全学年は難しく、基本的に小学校は 1・3・5 年生に行っており、カリキュラムとして組み込まれているというよりは、もともとある社会科や保健体育等の食育に関連の深い授業に入り、食育に関する指導を行うという形を取っている。</p> |
| 委員 | <p>教科書のようなものを 1 度作れば、ずっと同じものを使うことができる。5、6 年生になれば食育の授業が入るといった取組ができればと思う。ほかにも、標語などを募集してはどうか。啓発にもなると思う。</p> |
| 事務局 | <p>今の発言について、資料 4 の行政の取組欄の「健康に配慮した飲食店等の登録事業」と「エネルギー量や食塩使用量の表示店舗の登録事業」の間の部分に、「栄養教育の実施」などと入れる形でいかがか。</p> |
| 委員 | <p>学校給食における残滓量の減少について、地域の子ども達と話すと、「給食が足りないクラスと余るクラスがある。給食時間が短く、余ったクラスに取りに行く時間がない。」という話をよく聞く。最初に統計をとったうえで、量の増減を調整するという取組はどうか。</p> |
| 事務局 | <p>同じ給食費を払っていただいているので、あまり極端にはできないが、ある程度の調整は現場で行っている。</p> |
| 事務局 | <p>【議題：具体的な目標値の項目について】 『第 3 次福岡市食育推進計画の「目指す姿」と「具体的な目標値」及び説明（資料 5）』について説明</p> |
| 委員 | <p>現在でも身長・体重などの身体検査は実施しているのか。</p> |
| 事務局 | <p>毎年、年度当初に実施している。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | 市の組織の中には多数の部署があり、様々なデータを持っていると思うので、例えば、青年期の低体重や子どもの貧困について、身体測定の結果から小学生の BMI を学年ごとに計算することや、また、市立高校にもデータがあるはずである。健康増進課だけでは、これだけのデータを集めることはできないが、各部署にあるデータを利用し、行政の縦割りに横に芯を通すと様々なデータがあると思う。 |
| 事務局 | 今の計画の中でも各部署と連携しながらデータを集めているので、そういったデータについては今後も共有しながら進めていきたい。 |
| 委員 | 組織内にあるデータを利用して組織を活性化することを「IR 分析」というが、今まで個々で使用していた各部署のデータを誰かが統括する。例えば、「一汁三菜を実践しているか」と「成績」のデータを合わせると、実は相関があり、実践している方が成績が良いことがわかった。各部署のデータを見て、身体測定の結果から BMI を計算して、経年変化や低体重の子が増えているのではないかなどのデータも使えそうな気がする。 |
| 事務局 | 取り組める部分については検討していきたい。 |

(議事終了)